



農村女性が太平洋諸島に明かりを灯す

背景

太平洋諸島の国々では、女性や女兒、男性や男児にはそれぞれの家庭と共同体で異なる役割があり、それぞれのグループは気候変動によって受ける影響も異なり、それに対処する明白な方法を備えています。

しかし、女性が共同体内で別個の役割を持っていることは、それぞれの家族や共同体が気候変動の影響を緩和し、適応していくのを支える上で重要な役割を果たせることを意味しています。女性たちは機会が与えられた時に役立つ価値ある知識と技能をもっているのです。UN Women は各国政府やパートナーと協力して、女性たちをソーラーエンジニア（太陽光発電技師）として訓練することによってエンパワーしようと努めています。

太平洋諸島の辺境の農村共同体では、便利な電力資源を利用できない場合が多いのです。基礎エネルギーの需要のためにディーゼル発電機や灯油ランプに頼ることは、グローバル環境に悪い影響を与えます。それに対して太陽光電気は代替エネルギー問題の解決になり、同時に、貧困の削減、ジェンダー平等、教育と健康の面での進歩を促すことにもなるのです。しかし、地元の共同体がソーラー技術を構築し、設置し、維持、修復する能力を高めることも必要です。こうした問題に取り組むうえで地元の女性たちが重要な役割を果たすことができるのです。

UN Women は、世界の貧困者のなかでも最も貧しい人たちの生活の質的向上を目的として活動する非政府組織、インド・ベアフット・カレッジと協調した活動を進めています。

どのような活動か

太平洋諸島の国々の女性をインドに送って、ベアフット・カレッジでソーラーエンジニア（太陽光発電技師）としての研修を受けさせるのです。女性たちは 6 か月にわたって、自分たちのなすべき仕事を学びとったあと、それぞれの共同体へ戻り、その家々で使用するソーラーパネルを設置します。そして女性たちはそれぞれの共同体にとどまってソー

ラーパネルの維持と修理ができるように備えています。また、他の人たちにパネルの設置や維持のやり方を教えるのです。

ソーラーエンジニアは辺境の農村出身の祖母や母親で、読み書きもろくにできない人たちです。こうした基準で女性を選ばれるのは、高齢の女性たちは地域社会でも最も貧しい人たちだからです。彼女たちは村に残ってエンジニアとして働き続ける可能性が高く、それがプログラムの成果を持続させるうえで役立っています。

高齢の、教育もあまり受けていない女性が成功することを示すことによって、ソーラーエンジニアは、恩恵を受けた地域社会に住む他の女性に対して、伝統的なジェンダー役割以上のことができるようになりたいという意欲を促すこととなります。このプログラムは女性をエンパワーして地域社会の変革の担い手にさせ、彼女たちの技能を気候変動との戦いに活用させようとしているのです。際立った、重要な役割を手にするによって、ソーラーエンジニアとなった女性たちは、地域社会の問題を統括する男性支配の権力構造に対する自分たちの影響力を増大させてもいるのです。

成果

2012年、社会福祉・女性・貧困削減省の支援を得て、フィジーの辺境の農村地帯出身の10人の女性が研修を受けるためにインドに派遣されたあと、帰郷して12の村の376戸の家にソーラーパネルを設置しました。ソーラーエンジニアたちは、自分の村にソーラー・ワークショップを設立、そこは、彼女たち自身が設置したソーラーパネルによって独占的に運営されています。

これらの共同体は孤立しているため、国の送電線網を利用できないうえに、コストが高く、大気汚染のもとになる電力源に頼っていました。「農村女性が太平洋諸島に明かりを灯す」プログラムのおかげで、いまではこれらの共同体は低コストの持続的なエネルギーを利用できるようになりました。

さらにナウル（3名）、ソロモン諸島（4名）、キリバティ（4名）、ヴァヌアツ（3名）、サモア（4名）出身の合計18名の女性が2013年の初めに研修を完了しました。彼女たちはすでに村に帰って、装置が到着して950戸の家を支援するのを待っています。

| 国名 | 設置戸数 | 研修を受けた女性の数 |
|--------|------|------------|
| フィジー | 376 | 10 |
| キリバティ | 200 | 4 |
| ナウル | 200 | 3 |
| サモア | 200 | 4 |
| ソロモン諸島 | 200 | 4 |
| ヴァヌアツ | 150 | 3 |
| 合計 | 1326 | 28 |

影響

最近フィジーのカダヴ島を訪れた UN Women のスタッフは、そこで実施されたイニシアティブが大きな成功を収めているのを目にしました。

レアピ・ワイタェカさんはカダヴのオノ島にあるナボウワル村出身のお婆ちゃんです。彼女は 2012 年にインドで研修を受け、ソーラーエンジニアとして仕事をするために村に帰りました。ソーラー・ワークショップの立ち上げに成功し、ソーラーパネルとバッテリーを取り付け、ソーラー電力だけを使ってワークショップの装置に電力を通すことができました。そして村のすべての家にソーラーパネルを設置したのです。さらに彼女は 18 歳の高校卒業生ソファイア・ワガバカさんを弟子のエンジニアとして訓練しました。今後も村の他の女性たちにパネルの設置と維持管理の方法を教えたいとしています。

ソーラーパネルが設置されるまで、この村はディーゼルエンジンによる発電機に頼っていました。村の平均現金収入は、年間一戸当たり 1500 フィジードルで、ディーゼルの平均コストはリットル当たり 3 フィジードルです。このように高額のコストのせいで、電力の利用は限られていました。いまや、村は安価で持続的なエネルギー源にアクセスできるようになり、陽が沈んだ後一涼しくなる月には午後 5 時半ごろ一明かりを灯せるようになりました。

ソーラーパネルは、苦もなくこの島に運ばれて来たわけではありません。建設のための装置はすべてインドから、スヴァを経て、カダヴに来たのですが、スヴァからカダヴまでフェリーで 6 時間かかり、そのあとファイバーグラス製の平底船で 2, 3 時間の旅が必要でした。ここまでの道のりは天候が悪いときは厳しく、装置が濡れないようにしておくのは大変です。レアピさんは、インドへ研修に行くのはとても怖かったと言っていますが、このプログラムに関わることができたのはよかったと喜んでいますが、彼女は近隣の村々や共同体にソーラーパネルを設置し、他の女性たちをソーラーエンジニアに育てることができず。

ナボウワル村はソーラー電力プログラムを管理するソーラー委員会を設立しました。村のすべての家が、委員会の運営する基金に当初基金を拠出し、以後も毎月少額の寄金を続けています。これらの基金はレアピさんの仕事に対する報酬として、またソーラーパネルの維持管理とワークショップの費用として使われます。こうしたことはこのイニシアティブを長期に持続させるうえで役立っています。

グローバル・プログラム

「農村女性が太平洋諸島に明かりを灯す」プログラムは、グローバル・イニシアティブ「農村女性が世界に明かりを灯す」の一部です。このグローバル・プログラムは、ベアフット・カレッジ、UNDP グローバル環境設備向け小額融資プログラム (GEF-SGP)、UN Women、および地元の市民社会パートナーによって履行されているもので、下記のような顕著で重要な影響を与えています。

・社会・経済的影響

参加している多くの共同体では、灯油などの燃料の消費量を減らし、現金の節約ができた。ガーナとベニンでは、エネルギー費の支出をそれぞれ **76%**と **56%**削減できた。大きな効果は、ソーラー発電によって共同体が暗くなってからも所得創出活動に従事できるようになったこと。ガーナでは、ソーラー発電によって2基の食品加工プラント用の電力を供給している。ニジェールでは、ソーラー電気がはちみつ生産を助けるのに使われている。エチオピアでは、女性が手工芸品と「テラ」と呼ばれる飲料の生産量を増大させた。ベニンでは、ソーラー電気を受けるようになって1年以内に女性の取引業者の所得が **10%**増えたと報告されている。

・教育

明かりを使用できるようになったことで、すべての共同体の子どもたちは暗くなってからも勉強する機会をもてるようになり、共同体全体としても、成人の識字プログラムへの参加が増えるなどの教育効果が報告されている。

・ジェンダー平等

プログラムに参加している共同体のすべてが、読み書きのできない女性エンジニアの社会的地位に与えるプログラムの影響に注目しており、プログラムが女性と女兒のイメージを向上させたと話している。

UN Women は、太平洋諸島でのプログラムからも同じような効果があると期待しています。モニタリングのための訪問と基本線とフォローアップ・データの収集によって、変化の程度が測れることになるでしょう。

パートナーシップ

UN Women は、ベアフット・カレッジと協働で、このイニシアティヴについて関係する国々と地方当局と連絡を取りあっています。ベアフット・カレッジは持続可能な方法で、自給自足体制を築けるよう支援しています。ベアフット・カレッジとしては、オーナーシップの考え方を推進しており、農村開発活動が成功し持続するために、村を基地として受益者が管理所有していなければなりません。ベアフット・イニシアティヴはすべてベアフット・プロと呼ばれる農村女性と男性のネットワークで計画され、実行されています。

太平洋諸島の国々のそれぞれにおいて、地元の共同体に基づく組織が、このプログラムの履行パートナーとして選ばれます。ということは、ソーラーエンジニアは、必要に応じて自国にある支援・情報センターにアクセスできるということです。このイニシアティヴで活動している市民社会組織は以下の通り。フィジー海洋区地域管理ネットワーク (FLMMA), キリバティ全国女性協会 (AMAK), サモア NGO 連絡協議会 (SUNGO), ソロモン諸島海洋区地域管理ネットワーク (SLMMA), ヴァヌアツ NGO 協会 (VANGO)。

UNDP GEF=SGP も、このプログラムに資金を提供しています。